氷上の甲子園
駒大苫小牧高対東北高 H24.8.5

結晶

Special Edition

特集 アイスホッケー

フェイスオフ

太平洋から吹く冬風に晒され、沼や湿地は凍りつき、一方、雪が少ないという特徴から、天然のリンクが数多くあったわがまち苫小牧。気候、風土、人に結ばれた縁でアイスホッケーが根付き、広がり、育まれました。

苫小牧におけるアイスホッケーの歴史は古く、1920年代初頭にはホッケーらしきものが市民の遊びとしてありました。王子製紙のアイスホッケー部結成を皮切りに、岩倉組との苫小牧2強時代を築き、日本リーグを沸かせました。リンクなどの施設も充実し、まちの娯楽として、また、小さな子どもの憧れの競技として、市民のスポーツとして盛り上がりました。

1970年代には、女子チーム苫小牧ペリグリンが結成され、女子ホッケーのレベルアップが進んだ一方、名門岩倉組が廃部になり、苫小牧における一時代が幕を閉じました。日本ホッケー界においても、少子化や厳しい経済状況を背景に、日本リーグの休止や実業団ホッケー部のクラブチーム化など、アイスホッケーを取り巻く状況が厳しくなってきました。

第1ピリオド

現在苫小牧では、スポーツ人口が減っている中、子どもから大人までの約1千600人の方がアイスホッケーをしています（表1）。現在10周年のアジアリーグでは王子イーグルスが首位を走り、全日本選手権の勢いをそのままに、優勝を目指